

あたたかい人間関係の中で、自分らしさを発揮して学習に取り組める場を

彦根市	活動名：水曜放課後学習会	東中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：東中学校図書室		開始年度：平成 26 年度	
年間開催日数：25 日(開催ペース：週 1 日)		地域学校協働活動推進員等数：2 人	
平均参加人数：8 人		学習支援員等 平均人数：5 人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他()			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他()			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。

基礎でつまづいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。

■ 特徴的な学習支援内容

生徒の自主性を尊重し、生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら開催。3年生の希望する生徒を対象として実施した。

生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、各自で学習の振り返りを記入し、ボランティアがメッセージを書くなどして交流に活用した。

■ 事業の成果

生徒とボランティアとの関係がよく、生徒は安心して積極的に質問し学習をすすめている。

生徒の学習意欲が大変高く、1時間半、集中して取り組む生徒の姿が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

1、2年生の希望者も受け入れを検討したいが、ボランティアの人数が足りないため難しい。

多忙な教員との連携が難しく、家庭の事情で家庭での学習が難しい生徒や不登校の生徒など、本来こうした場が必要であろう生徒になかなか届かないことが危惧される。

■ その他

地域学校協働活動推進員がボランティアをうまくコーディネートし、年間を通して、放課後学習会の運営が大変スムーズに進んでいる。教員にとっての働き方改革にもつながっている。



【放課後学習会全体の様子】



【学習会での個別指導の様子】

報告書記入者(教頭)

それぞれの「〇〇したい！」にあった支援で、学力アップ！

彦根市	活動名：くろがねもち教室	城東小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所:教室		開始年度:令和4年度	
年間開催日数:2日(開催ペース:夏季休業中)		地域学校協働活動推進員等数:2人	
平均参加人数:38人／1日		学習支援員等 平均人数: 3人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他()			
・教室のもち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他()			
・学習支援員等の属性: ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

3年生以上を対象とし、国語、算数の基礎的・基本的な学習内容の定着を目指す。

夏季休業終盤の2日間、午前8時30分から実施。

■ 特徴的な学習支援内容

1学期の学習状況を参考に、個々の課題に応じた問題等を準備し、取り組む。

各学年2～3人体制で指導に当たり、それぞれの困り感に寄り添った個別の指導支援を基本とする。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

1学期末個別懇談会で保護者に案内する。

友だち同士で話をしたりせず、自分の課題に集中して取り組むようにする。

■ 事業の成果

2学期開始直前に設定したことで、夏季休業中の課題について質問をするなど、子ども自身が課題意識をもって参加することができた。また、午前8時30分開始としたことで、生活リズムを整えるきっかけになった。

少人数で個別に指導を受けることで、集中して学習に取り組めた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

下校時の見守り等への協力もいただけると、参加する児童・保護者ともさらに安心感をもてるのではないかと考える。



【個別の指導を受け学習に向かう様子】

報告書記入者(地域連携担当教職員)

個に応じた学習支援 ～地域で育てる 佐和山っ子～

彦根市	活動名：さわやま教室	佐和山小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所:教室 年間開催日数:18日(開催ペース:月2～3日) 平均参加人数:16人 開始年度:令和3年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 学習支援員等 平均人数:5人 ・学習形態 : ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方 : ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性: ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

高学年児童で、主に算数科で学年相当の学習に苦手意識がある児童を対象に、学力の向上を目指して学力補充をしている。

■ 特徴的な学習支援内容

学校(担任や担当教員)と連携を取り、児童一人一人の学習課題を把握し、学習計画を立てる。学習進度に合わせて予習・復習を行う。学年別に担当する学習支援員を大まかに決めて、できるだけ同じ支援員が指導・支援にあたることで児童が安心して聞ける関係づくりに努めた。

【 学習指導の様子 】

少人数での学習形態で一人一人の弱みを補充するため、児童も達成感が得やすく、わかることが意欲につながり楽しく学習に取り組んでいる。また、はじめの10分程度は、算数科の宿題に取り組む時間とし、今学習している内容についてもつまづき等の支援にあたっている。そして、終盤には、振り返りを記入する時間を設け、授業に対する意欲や理解を深めることにつながっている。



■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

高学年の希望者が対象。学期ごとに参加希望者を募り、保護者と担任で話し合って参加日程を決めている。

■ 事業の成果

昨年度申し込んで学習への理解の深まりと楽しさを実感した児童が、今年度も申し込み、積極的に学習に取り組んでいる。「わかる」ことの楽しさが日々の授業への意欲にもつながっている。また、少人数で自分のペースに応じた学習ができるよさを体験し、コツコツと学習を積み上げられることを児童自身が感じて前向きに学習に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の人材確保が難しい。昨年度からの継続で確保できているところはあるが、少人数での個別支援という学習形態を続けていくためにも、安定した人数の保障についてよりよい手立てを模索していく必要がある。

報告書記入者(学ば力向上推進リーダー)

「あなたの未来のために学力向上をめざしませんか？」 来たれ！ 未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	西中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所:被服室・理科室 年間開催日数:16日(開催ペース:月2日) 平均参加人数:20人 開始年度:平成26年度 地域学校協働活動推進員等数:2人(兼務:1人) 学習支援員等 平均人数:6人 ・学習形態 : ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方 : ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性: ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後の時間を活用して学習支援員が個別の学習指導を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

元教職員の学習支援員を動員し、豊富な経験と高い指導力を生かして生徒の学力向上を図った。各自が学習課題を自身で準備することで、生徒の目的意識を明確にした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募り実施した。2会場で学習会を実施し、集中して学習ができる対策を行った。

■ 事業の成果

個に応じた学習支援が実施でき、学習意欲の向上が図れた。地域の方との交流が深まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の高齢化が進み、人材を確保することが難しくなりつつある。大学生は学習支援員としての意識が低く、参加率が徐々に悪くなった。

■ その他

特別な支援を必要とする生徒への指導者側の学習支援スキルを高めていくための体制を検討する必要がある。



【 放課後学習教室 】

報告書記入者(教頭)

きらり学習 ～個別指導による学力補充学習～

彦根市	活動名：夏休みきらり学習教室	城北小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所:教室 年間開催日数:3日(開催ペース:年3日) 平均参加人数:60人 開始年度:平成26年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 学習支援員等 平均人数:15人 ・学習形態 : ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方 : ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性: ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☒ その他			

■ 活動の概要と目的

実施日時:夏季休業中の3日間、(7月22日(月)23日(火)24日(水))、いずれも午前8時30分から午前10時まで。
 目的:算数科を中心とした、個別の学力補充。

■ 特徴的な学習支援内容

算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。

■ 事業の成果

地域の方々や近江高生の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまづきを的確に把握し、スモールステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、児童は「分かった!」「できた!」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。



【 きらり学習の様子 】

報告書記入者(教頭)

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名：放課後バックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所:教室 年間開催日数:16日(開催ペース:週・1日) 平均参加人数:15人 開始年度:平成24年度 地域学校協働活動推進員等数:2人(兼務:1人) 学習支援員等 平均人数:3人 ・学習形態 : ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方 : ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性: ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

3～6年生の希望者(保護者同意のもと)を対象に、算数科の基礎的・基本的内容の定着に向け、個別指導を主とした教室を年間16回開催した。

■ 特徴的な学習支援内容

プリントやドリルの基礎的・基本的内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援を行っている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

児童と保護者の思いを尊重すること、下校時、保護者が確実に迎えに来られることを確認し、迎えが可能な児童のみ参加できることとした。

■ 事業の成果

児童に個別に対応することができるため、その児童がもつ困り感に寄り添いながらバックアップ教室を実施することができた。学んだ内容に対する理解が深まった児童は、日々の学習に自信をもって参加する姿が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

より充実した指導となるよう、学習支援員の確保が課題である。

報告書記入者(教頭)

来てみる・やってみる 「土曜教室・てみる」

彦根市	活動名：土曜教室・てみる	中央中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所:理科室		開始年度:平成 26 年度	
年間開催日数:7 日(開催ペース:月 1~2 日)		地域学校協働活動推進員等数:1 人	
平均参加人数:12 人		学習支援員等 平均人数:8 人	
・学習形態 ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他()			
・教室の持ち方 ☐ 平日放課後実施 ☒ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他()			
・学習支援員等の属性: ☒ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☒ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

子どもたちへの学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。

■ 特徴的な学習支援内容

1対1または指導者1人に2名程度を基本とし、学習支援員との関係づくりを大切にしながら進めていく。また、子どもの学びたいこと(教科や内容)を各自用意させることで、主体的な学習となるようにしている。2時間の学習時間の合間に、子どもと学習支援員の交流の時間を設定して、カードゲームや知育ゲームを一緒に行うことで、よりコミュニケーションが深まるようにしている。この交流タイムでの温かなふれあひから、子どもの自尊感情の高まりなども期待している。



【 教室の様子 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校生徒に案内を配付し希望を募っている。開設日は、部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して調整している。毎回、実施後に地域学校協働活動推進員が中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わり方の質の向上につなげている。

■ 事業の成果

個別指導により、つまづきを的確に把握しながら学習支援を行い基礎学力の定着を図ることができている。また、3年生の受講者には、作文や面接のアドバイスを行うなど、進路実現にもつなげることができている。また、休日の午前中に開催することで、生活リズムを整え学習習慣の定着にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

地域学校協働活動推進員や学習支援員の確保、企画・運営ができるコーディネーターの確保が必須である。

報告書記入者(教頭)

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名：学び育ちLL教室	中央中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所:中地区公民館		開始年度:平成 24 年度	
年間開催日数:44 日(開催ペース:週 1 日、月 4 回)		地域学校協働活動推進員等数:1 人	
平均参加人数:10 人		学習支援員等 平均人数:10 人	
・学習形態 ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他()			
・教室の持ち方 ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他()			
・学習支援員等の属性: ☒ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☒ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

■ 特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校生徒に案内を配布している。また、活動状況はフェイスブックから発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。

■ 事業の成果

個々の学力やモチベーションにあわせて学習を進めることで主体的に取り組む場となっている。また特別な支援を要する子どもや生活面での課題を抱えている生徒も参加し、他者とかかわったり自分を見つめたりする時間となり、地域での居場所づくりになっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。



【 教室の様子 】

報告書記入者(教頭)

放課後学習 「水曜ゼミ」

彦根市	活動名：南中未来塾・水曜ゼミ	南中学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：南中学校 年間開催日数：13日(開催ペース：週1日) 平均参加人数：20人 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 学習支援員等 平均人数：3人 ・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他() ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他() ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要と目的

放課後学習「水曜ゼミ」(11～2月)は、3年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身に付けるために、プリントを使って学習している。基本、週に1回のペースで実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

水曜ゼミは受験を控えた3年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。近隣の大学生や本校卒業生への連絡、また地域学校協働活動推進員による地域への声掛けや連絡により、学習支援員の確保にあたっている。

■ 事業の成果

家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日があり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携し、学習支援員が確保できる体制を今後検討したい。また生徒用学習者用端末の活用についても検討を進めていきたい。



【 地域の方から学ぶ生徒の学習の様子 】

報告書記入者(教頭)

個に応じた学力補充教室（算数科を中心として）

彦根市	活動名：亀山学力補充教室	亀山小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：ファンファンルーム 年間開催日数：1学期末3日、2学期放課後(開催ペース：月2回) 平均参加人数：5人 開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：2人 ・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他() ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他() ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要と目的

5、6年生を対象に、算数科の学力補充を目的とした学習教室を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

担任や担当教員と連携を図り、個に応じた学習課題を把握し、問題演習や個別指導を行った。主に、当該学年以前のつまづきが見られる単元に絞り、児童自身が「わかってきた」「できるようになった」と実感できることを大事にしながら学習を進めた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

5、6年生で、個別指導が望ましいと考える児童に参加を呼びかけた。また、保護者の迎えが可能であることも確認した。

■ 事業の成果

個に応じた学習支援ができ、学習意欲の向上につながった。

同じ町内で顔見知り程度だった地域の方が支援に来てくださり、交流する機会となった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

昨年度までは、1学期末に集中して補充教室を実施していたものを、地域の方に協力いただいて、今年度から平日の放課後に実施日を変更した。定期的な学習時間の確保は、児童にとって「苦手を解消する時間」となり、分かる楽しさを実感しながら参加することができた。

開催日数を増やしたいところだが、学習支援員の人材確保が難しい。



【 学習の様子 】

報告書記入者(教頭)

自ら学び、根気強くやりぬく生徒の育成を目指して

彦根市	活動名：彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：被服室 年間開催日数：42 日(開催ペース：週2日) 平均参加人数：20 人		開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：2 人 学習支援員等 平均人数：3人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他() ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他() ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO 等関係者 ■その他			

■ 活動の概要と目的

毎日の授業だけでは十分に学力定着に結びつかない生徒も多く、何を学習してよいのか分からない生徒も多数いる。そこで、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人一人の学力に応じた学習を個別対応で進め、学習の習慣化と学力の定着を図る。



【 夏季補充教室 】

■ 特徴的な学習支援内容

夏季休業中の補充教室と質問教室は、全学年で5日間実施し、特別教室にて生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が行った。

3年生の放課後学習会では、10 月から毎週火・木曜日を基本にして、生徒が特参する学習教材に対する支援を、学習支援員と教員が行った。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

3年生の放課後学習会では参加希望者が多く、学習支援員と教員が協力して実施できるようにした。

■ 事業の成果

学習支援員に積極的に質問するだけでなく、同じ機の生徒同士で教え合う姿も多くみられた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ICT を活用したボランティア登録制度を次年度より取り入れ、学習支援員が十分に確保できる体制を確立したい。

報告書記入者(教頭)

算数科学習支援教室

彦根市	活動名：2 年生算数支援教室	河瀬小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：2年生教室・少人数教室 年間開催日数：10日(開催ペース：週 5 日) 平均参加人数：78人		開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 ■その他(九九カード) ・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他() ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO 等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

2年生児童のかけ算九九の定着を図る。

■ 特徴的な学習支援内容

個別の学習支援
 プリントを採点する
 かけ算九九の定着を図る



【 2年生算数支援教室 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

本校に教育実習に来た地元在住の大学生に声をかけ、学習支援を依頼した。

2年生の最重要課題であるかけ算九九の習得に特化して、学習進度に合わせて、クラスごとに支援をしてもらった。

■ 事業の成果

従来は担任が1人で暗唱できているか確認をし、カードに合格シールを貼っていたが、2人体制で聞くことができ、短期間に効率的に習得することができた。

児童も担任以外の先生にも聞いてもらえるということで、意欲的に取り組み、定着を図ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

今後も、学習補充教室以外にも、学年・教科・活動を特化して、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名：学力補充講座・教室	鳥居本中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：各教室 開始年度：平成 24 年度 年間開催日数：11 日(開催ペース：夏季休業中) 地域学校協働活動推進員等数：1 人 平均参加人数：8 人 学習支援員等 平均人数：2 人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☒ その他			

活動の概要と目的

生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、学習支援員と教員と一緒に実施している。

特徴的な学習支援内容

長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題(ワーク、タブレットドリル)等の基礎的な問題やわからない問題を中心に個別支援している。

参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

学力の補充が必要な生徒に、担当教員から参加勧誘の声をかけた。
 学習支援員の人数に偏りが出ないようにスケジュールの調整を行った。
 保護者にも支援員として協力していただけるようプリントを配布して募集を行った。

事業の成果

生徒は、丁寧にわかりやすく教えてもらっていると好評である。
 地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。
 学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように確保するかが課題である。
 平日の放課後等の実施は、行事や時間設定、人員の確保等の面から、難しい現状にある。



【 夏休み補充学習 】

報告書記入者(教頭)

輝く笑顔 一人一人の「わかった!」をめざして

彦根市	活動名：夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：教室 開始年度：令和2年度 年間開催日数：3日 地域学校協働活動推進員等数：2人 平均参加人数：20人 学習支援員等 平均人数：3人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他			

活動の概要と目的

国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的として、夏季休業中の3日間(7月 22日(月)、23日(火)、24日(水))、いずれも、午前 8 時 30 分から午前 10 時 20 分まで実施した。

特徴的な学習支援内容

基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきに個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。

参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

個別指導が望ましい児童への、担任からの呼びかけにより参加を募り、可能な限り個に応じた学習を進め児童の自信につなげた。地域学校協働本部事業にいただいた意見を組み入れ連携して事業を実施した。実施した様子についてもまた、学校運営協議会等においても伝えるようにした。

事業の成果

学習そのものに苦手意識があり、基礎基本の積み上げが困難な児童が参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を実感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切に目を向ける児童の姿も見られた。

事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。



【 夏休み国語算数教室 】

報告書記入者(教頭)

生徒と指導者、生徒同士で教え合い、学び合う態度を培う学習塾

彦根市	活動名：地域未来塾	稲枝中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：稲枝中学校多目的室、図書室 開始年度：平成28年度 年間開催日数：21日(開催ペース：週1日・月4日) 地域学校協働活動推進員等数：2人 平均参加人数：14人 学習支援員等 平均人数：4人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

3年生の受験対策、塾等に行かない生徒の学力補充。

■ 特徴的な学習支援内容

生徒同士で教え合いをし、指導者が支援をする。

最初10分は、共通課題で基礎的な学習をし、残りの時間を各生徒の学習を行う。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

3年生学年主任から参加を呼び掛けてもらっている。

■ 事業の成果

地域未来塾に参加する前に分からないところを確認し、塾がスタートすればすぐに質問をする雰囲気が出てきた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

有償ボランティアによる活動である。報酬が年々減少し、実施回数が制限されてきている。

生徒たちの熱心な姿をみて、報酬にかかわらず時間を延長して指導していただくボランティアにはありがたく思うが、この事業の今後が心配される。



【 未来塾指導の様子 】

報告書記入者(地域学校協働活動推進員)

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名：かがやき教室	稲枝東小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：音楽室またはアクティブ・ラーニング教室 開始年度：平成30年度 年間開催日数：11日(開催ペース：月1、2日) 地域学校協働活動推進員等数：1人 平均参加人数：25人 学習支援員等 平均人数：5人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

4、5年生の児童を対象に、7月より月に1、2回程度の学力補充の時間を計画した。

■ 特徴的な学習支援内容

担任からの聞き取りをもとに、事前に児童がつまづきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を進め、学習支援員は児童の困り感や質問に応じて、個別の学習支援を行った。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

基礎的・基本的な内容に絞り、参加を呼び掛けた。あわせて、個別に支援することで、伸びが期待できる児童にも担任から声をかけて参加を促した。

■ 事業の成果

担任からの聞き取りをもとに学習プリントを絞り準備したことで、苦手な内容の克服に一定の成果が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

少人数のよさを生かして個に応じた支援ができたが、人数が増えるとその効果がやや弱くなる。

年間を通して個の成長を記録して見取り、次の支援に生かすことは今後の課題である。

■ その他

本校の取組について、日々の学校生活の様子と併せて稲枝東小学校ホームページにて紹介しています。

<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>



【 学習支援の様子 】

報告書記入者(地域連携担当教職員)

わくわく はえみ学習

彦根市	活動名：ホップタイム	稲枝西小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：教室 年間開催日数：5日(開催ペース：月1日) 平均参加人数：21人 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：6人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

確かな学力の定着と苦手な学習内容の復習

■ 特徴的な学習支援内容

1クラスに、1～2名の指導者を配置した。課題は学習内容に合わせて難易度を分けて用意したり、教科書、ドリルの問題を使用したりした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

学年の学習内容やテストに合わせて学習課題を準備することで、子どもたちも目標をもって取り組むことができた。また、学級での既習内容について確かめたり振り返ったりすることもできた。

■ 事業の成果

1クラスに教員を2名配置することで、充実した個別学習支援をすることができた。また、子ども同士で教え合ったり、励まし合ったりする場面も見られ、難しい問題でも自分の力で最後まで取り組もうとする粘り強さが育ってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学期ごとの日程調整や内容確認を早めに行ったことで計画的に取り組むことができた。

■ その他

元教員の方が多く、一人一人にきめ細やかなサポートをしていただくことができた。ホップタイムによって自信をもつ子どもの姿を通して、地域の力に支えられていることを改めて実感した。

報告書記入者(地域連携担当教職員)



【 ホップタイム 】

「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学習意欲を高める

彦根市	活動名：ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：2年生教室、4年生教室 年間開催日数：16日(開催ペース：週2日) 平均参加人数：5人 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：2人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他() ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

少人数による個別指導で「できた・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、児童の学習意欲を高められるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

課業日の月曜日(1～3年生)水曜日(4～6年生)、学期ごとに参加児童を募集し定員を6名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題(プリント等)を準備して実施したりし個別の進捗で学習を進める。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、4～7名という少人数で実施している。

■ 事業の成果

学習に苦手意識のある児童、集団の一斉学習では学習内容の習得が困難な児童への個別支援が充実した。分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもたせることができた。また、個別に復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、募集の仕方を工夫する必要がある。効果があることを知らせ、児童へ声をかけるとともに、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。また、学習支援者と担任との打合せを充実させるなど連携を一層、密にしていける必要がある。

■ その他

地域学校協働活動推進員のご尽力により現在の学習支援者にお世話になることができていますが、今後の人材確保も課題となっている。

報告書記入者(教頭)



【 ぐんぐんクラブ(下学年) 】